

平成 31 年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同研究班」 研究報告書

令和 2 年 4 月 20 日現在

研究課題名	スラブ・ユーラシア地域を中心とする境界・国境研究		
担当者	氏名		所属機関・職
	1	岩下明裕	スラブ・ユーラシア研究センター・教授
	2		
班員	氏名	所属機関・職	専門とする研究分野
	醍醐龍馬	小樽商科大学商学部 准教授	日本政治外交史、日露関係史
	研究テーマ		
	旧日本郵船小樽支店における樺太境界画定委員会議		

研究成果の概要

本研究では、日露戦後に旧日本郵船小樽支店で開かれた樺太境界画定委員会議の経緯とその歴史的な性格を地域の視点から明らかにした。明治 39 年 11 月に開かれた当会議は、ポーツマス条約で決まった南樺太割譲のための実務者会議だった。また、小樽区民としては、当会議の開催を地元の名誉と捉える向きが強く、旧魁陽亭(当時は開陽亭)で小樽区民主催の日露両委員の歓迎会が催されるなど一種のフェスティバル的性格を呈していた。日露戦争後の両国関係は好転し始めるが、その風潮の象徴的事象として小樽での地域交流を位置づけた。

上記一連の流れを明らかにする上で、樺太境界画定作業に随行した志賀重昂の関連資料を北海道大学附属図書館で調査したほか、国立国会図書館では「寺内正毅関係文書」に所収される大島健一書簡を調査した。また、『日本交文書』や『北海タイムス』などを調査したほか、樺太の北緯 50 度線に残る境界標石跡の写真撮影も行った。本研究の成果は、現在進行中の旧日本郵船小樽支店及び旧魁陽亭のリニューアル計画に伴う展示室整備に貢献し得る。また、論考「『開陽亭』と樺太境界画定委員会議」を準備したほか、本年 4 月には小樽市内でシンポジウムの開催も予定されていたが、緊急事態宣言下で残念ながら延期となっている。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

『開陽亭』と樺太境界画定委員会議一地域交流から見た日露戦後」小樽商科大学グローバル戦略推進センター研究支援部門地域経済研究部編『旧魁陽亭一北海道を代表する老舗料亭』（仮題）、株式会社 K2、刊行予定 （謝辞なし）

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。